



地域資源の原石を磨く！

各地区には、誇りにしていること、育てていきたいことなどを皆で共有している「地域資源」の原石があり、小さな拠点づくりの活動を通じて磨いています。

地区名	活動内容
世田米	<p>三沢写真館の「懐かしい写真」</p> <p>世田米商店街にあった三沢写真館の閉店後、所蔵されていた写真を展示する写真展が開催されています。写真に閉じ込められた町の記憶が、地区民同士のコミュニケーションを弾ませています。</p> 
大股	<p>遠藤重吉さんの昔語りコレクション</p> <p>大股には、故 遠藤重吉さんが生前に、大股や町内に残る伝承や小話、史実などを編纂したコレクションがあります。大股の不思議で神秘的な伝承を次世代に繋げながら、地域の魅力につなげるチャレンジをしています。</p> 
下有住	<p>松日橋とその周辺のこざっぱり</p> <p>住田が誇る「松日橋」は、里に暮らす人々の手で常に維持管理が必要で、下有住の象徴ともなっています。桜の植樹や草刈り、イルミネーション設置など、住民からの提案も取り入れ、その周辺にも手をかけています。</p> 
上有住	<p>地区公民館・資料館前の広場</p> <p>地区民の方々の期待を受けて完成した新しい地区公民館は、地域の方々と子どもたちが共作で飾るイルミネーションが提案され、地域の方々の思い出を重ねる新しい場所へと育とうとしています。</p> 
五葉	<p>里に暮らす人が育む森の恵み</p> <p>地域の風景を作る森からのお裾分けを取り出していただくことで、地域の恵みとして活用する取り組みがあります。森に囲まれた里に暮らす人として自然の恵みを全身で味わう豊かさを地域内外に広めています。</p> 



「小さな拠点づくり」5地区の活動を伝える

五つ星ニュース

第5号



地域資源の原石を磨く！

世田米の旧三沢写真館に所蔵され、「世田米昔なつかし写真展」に展示された写真

令和5年度小さな拠点づくり運営会議が開催されました。

住田町の「小さな拠点づくり」は、3月12日に上有住地区公民館を会場に5地区の地域協働組織が集まる運営会議を開催しました。

各地区の地域協働組織からは会長、事務局、役員が参加し、各地区の地域活動の成果と課題を出し合いました。また、役場や社会福祉協議会の方々にも参加していただき、小さな拠点づくりがどのような成果を上げているかを共有しました。

「下有住の蕎麦栽培のように、一つの地区の取り組みにとどまらず、全町的に広がっていくことで、町全体の魅力向上につながっていくれば」との意見もありました。



小さな拠点は来年度で8年目となり、住田を元気にする地域活動が定着し、町全体を活気づける原動力になっています。

住田町「小さな拠点づくり」の活動を伝える 五つ星ニュース 第5号 2024年3月 発行

【発行】
一般社団法人邑サポート
住田町世田米字本町 22-5
TEL 070-2021-6142

【編集協力】
住田町教育委員会
住田町世田米字川向 88-1
TEL 0192-46-3863

12月下旬～3月下旬の各地区の活動

今年は暖冬で雪の少ない冬になりましたが、各地区で冬ならではの交流行事が行われました。四季がはっきりしている住田の風土や風習を取り込みながら、各地区で活発な活動が展開されています。

地区	活動内容
世田米	12月 お正月リース講座 出張ヨガレッスン 地域の達人事業「餅つき」
	1月 地域の達人事業「凧づくり教室」 地域の達人事業「みずき団子づくり」
	2月 出張ヨガレッスン 役員会
	3月 サイエンスショー 総会・懇談会
大股	12月 クリスマス会・イルミネーション点灯式 買い物ツアー
	1月 みずき団子づくり 買い物ツアー
	2月 買い物ツアー
	3月 買い物ツアー 映画上映会 3B体操教室
下有住	12月 役員会 松日橋へのイルミネーション設置 イルミネーション点灯(2月まで) 新切地区の剣舞を学ぶ地元学 そば打ちおさらい会・体験会 下有住産のカエデ樹液活用 映画上映会
	2月 下有住を語る会 (三陸鉄道貸切列車)
	3月 下有住を語る会 (三陸鉄道貸切列車)
上有住	12月 イルミネーション点灯(1月まで) 路線バス体験ツアー (打合せ・ツアー・振返り)
	12月 サツマイモを使用した料理の全戸配布
五葉	2月 役員会 イタヤカエデの樹液採取
	3月 春を呼ぶ文化祭 役員会

世田米地区 昔ながらの行事や遊びを子どもたち伝える「地域の達人事業」

せたまいいきづくりでは、餅つきやみずき団子づくり、凧づくりなどの季節行事を教えてくれる「地域の達人事業」は、子どもたちと地域の方々の交流の場として長年続けられています。

核家族化が進み、祖父母から遊びを教わったり、昔ながらの地域の風習を体験する機会が減っていくなか、毎年楽しみにしている子どもも多く、保護者からも好評とのこと。



餅つきをやってみたい子どもたちの順番待ち



「地域の達人」に教えてもらって作った凧は大空に

大股地区 地域の力が光るイルミネーション

大股地区のイルミネーションは、新しい冬の景色として始めたものです。設置には、高所作業が得意な人、手元が器用な人、地域を盛り上げたい人、多くの人が集まって作業しました。

点灯式ではクリスマス会を兼ねて地域の子どもたちも招待され、運営を手伝ってくれたり、イルミネーションを自慢してくれたり、郷土愛の育成に繋がっています。



高いところでもスイスイ登って作業します。



わざわざ見に来てくれるなど、明るくなった大股の景色は子どもたちの自慢にもなっています。

下有住地区 三陸の海を見ながら、地元・山里を「下有住を語る会」

毎年恒例の「下有住を語る会」はコロナ禍で中断していましたが、今年は三陸鉄道の列車を貸切り、場所を新たに、3月10日に開催しました。三陸の海を眺め、海の幸を味わいながら、地元・下有住を一步離れた視点で地域を見つめ直す機会になりました。

「もっと多くの地区民に参加してもらい、来年は2両貸切で！」と参加者からはとても好評でした。



レトロな列車を貸し切って、盛～釜石の三陸鉄道の旅。東日本大震災の犠牲者への黙祷も行われました。



海の幸が詰まったお弁当を食べながら、普段の暮らしや将来について話し合いました。

上有住地区 普段乗らない路線バスと鉄道で、盛岡に行ってみた

昨年に続き、夢が輝く上有住では「路線バス体験ツアー」が12月11日に開催されました。事前に時刻表を確認し、バスと鉄道を乗り継いで盛岡に行くことに決めました。盛岡では市内循環バスに乗ったり、買い物を楽しんだりしました。

一人だと利用しにくい公共交通も、みんなとなら楽しく使え、一方で「帰りたい時間に帰れない」「乗り継ぎの情報が分からない」などの課題も共有する機会になりました。



切符を買うのも久しぶりの皆さん。実践を通じて、みんなで買い方を学びました。



盛岡の都市部での車の運転は怖い、との意見も。公共交通を使って楽しい旅気分を味わいました。

五葉地区 冬から春へと向かう木々の勢いをいただく

五葉地区では里山にあるイタヤカエデから樹液を採取する取り組みが、毎年行われています。例年2～3月の初春ごろ、樹液を吸い上げて生命の勢いを増すイタヤカエデに管を挿し、そのお裾分けをタンクに集めます。雪の残る森にも春の日差しが届き、沢のせせらぎを聞きながらの作業は、住田の春を感じる贅沢な時間でした。



勢いのある木だと、1週間程度で20Lタンクが満タンになるのだそうです。



森の中に春の日差しが届き、寒さと暖かさが入り混じった贅沢な空間でした。